

人工関節手術に支援ロボ

西能病院 新システム 県内初



【富

西能病院（富山市高田）は、加齢など

によって変形した股関節や膝関節を人工関節に置き換える手術の支援ロボットを導入した。人工関節の設置の精度や手術の安全性が高まり、術後の痛みが減るなどの効果が見込めるといふ。17日、1例目の人工膝関節の置換手術に成功した。

同病院が導入したのは、

米国の医療機器メーカー製の「Mako（メイコー）システム」。ロボットアームの先端に電動のこぎりな

関が導入し、手術には公的医療保険が適用される。人工関節を取り付ける際は、痛んだ骨を削り、形を整えなければならない。従来は、専用の器具を使っていたが、医師の熟練度や経験値に頼る面が大きかった。

新システムでは、手術前にCT画像を用い、骨を切る深度や角度などを決め、3次元で手術計画を作成。

この計画や赤外線的位置情報に基づき、モニターで骨を切る範囲などを確認しながら手術を行う。計画外の範囲に電動のこぎりが侵入しそうになると自動的にストップするため、安全な手術が可能になる。

西能病院は、2020年度に約200件の人工関節手術を行っている。18日に同病院で記者会見があり、整形外科の御旅屋宏史院長は「従来より安全性や精度が担保され、患者にとってメリットが大きい」と話した。

Makoシステムを使った手術を再現し、モニターを見ながら電動のこぎり

を操作する医師

の導入は県内初。昨年12月までに全国約30医療機